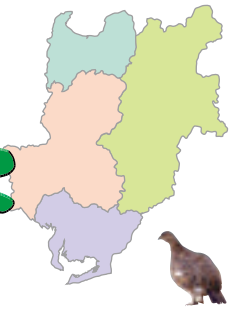




国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>



中継の様子、左から青池アナウンサー、滝沢沙織さん、松井戸隠森林官、丸ノ内自然保護官

## 森林官、テレビ生中継で国有林をPR

(P2に関連記事)

主な項目	○ マスコミを活用した国有林PRと研修 .....	P2~3
	○ 地域との連携 .....	P3~4
	○ 風景紀行「伊奈川溪谷」 .....	P8



**マスコミを活用した  
国有林PRと研修**

**森林官、テレビ生中継で  
国有林をPR**

〔広報〕九月二十六日、長野朝日放送の七時間まるごと自然派スペシャル「みつめて！信州生テレビ2009」が放送され、北信署戸隠森林事務所の松井森林官が生中継で国有林のPRを行いました。

長野朝日放送は、自然をテーマに毎年七時間番組を放送しており、今年も国有林として協力をしてきましたが、今年度は、戸隠（長野市戸隠）の鏡池をメイン会場に各地四箇所を中継しての番組を計画し、春から中部局に協力要請がありました。

中部局は、番組内で国有林のPRができることから番組制作に協力してき



メインキャスターの滝沢さんと松井森林官

ました。

番組では、戸隠を管理する松井森林官と環境省丸ノ内自然保護官が共に女性であることから、女性から見た森林・自然の保護管理について、メインキャスターの滝沢沙織さん（女優）と青池アナウンサーの四名が自然の保護管理について対談した様子を生中継されました。

番組ではこの他に、有井広報主任官が平澤アナウンサーと希少種のトガクシシヨウマを探す様子や、滝沢沙織さんに戸隠の自然を説明する様子が放送されました。

また、写真家の海野和男さんや作家の井出孫六さん、番組中に戸隠山登山をした歌手の三四六さん、水路を担当した俳優の中本賢さん他が出演しました。

今回の番組は、七時間と長時間ではありませんでしたが、前記以外にも植物、昆虫、希少種等について中部局が関わりを持った番組となり、国有林のPR、希少種の保護、登山・自然観察のマナー等について啓発することができました。

番組終了後、長野朝日放送から、御礼の言葉がありました。

**金曜会の国有林視察**

―長野県内マスコミ各社の長―  
御柱の生産地を視察

〔広報〕九月二十九日、金曜会（長野県内マスコミ各社の報道責任者の会）によ

る恒例の国有林視察を実施しました。

今年度は、来年四月に開催される、諏訪大社式年造営御柱大祭に使用される御柱を伐採してある南信署管内の東俣国有林を視察しました。

東俣国有林は、古くから御柱祭のモミ用材を供給してきたことから、平成十四年に地域伝統文化を支える森づくりを目的として「御柱の森」を設定している所です。

徒歩約二十分で春宮一の御柱伐採箇所に着くと直径約一メートル、長さ十七メートルに採材された柱が横たわっており、初めて見る大木に驚いた様子でした。

現地では、金井下諏訪首席森林官から御柱の伐採までの経緯とバークガードの設置やワナ捕獲などニホンジカ被害対策



御柱の前で記念写真

の実施状況の説明がありました。

午後は、諏訪大社下社秋宮で諏訪大社・御柱の由来等の説明を受けました。今回の視察を通じ、伝統文化への貢献など国有林が果たしている役割について理解を深めていただくことができました。

また、マスコミ各社も来年度の御柱の対応について参考となったようであり、感謝の言葉がありました。

**説明能力の向上を目指して  
職場内研修を開催**

〔南信署〕九月八日に、南信署と伊那谷総合治山事業所職員を対象に職場内研修「プレゼンテーション研修」を開催しました。

講師として、信濃毎日新聞に掲載され



シカワナ設置の実演

ている「希少種はいま」の執筆担当者、同社の編集委員の増田今雄氏を迎え、わかりやすい説明資料の作成手法に関する講義を受けました。

講義内容は、①写真の撮り方（カメラの構え方、アングルの重要性、テーマを分かってもらう工夫）②説明文の書き方（5W1Hでポイントを整理、見出し・リード・本文の注意点、起承転結と段落の流れ）③新聞記者の取材テクニック（十取材して書くには二、三が原則）等について、永年新聞記者として数多くの記事作成に携わってきた経験談や実例を交えながらそれぞれのポイントについてお話を伺うとともに、「中部の森林」に掲載された南信署の記事について、良いところ悪いところの指導も受けました。

マスコミに携わる現役の記者からこのような話を聞ける機会はめったになく、特に、南信署の記事についての指摘については、「なるほど」と思えることが多く、大変有意義な研修となりました。



講義をする増田今雄氏



研修の様子

開かれた「国民の森林」としての管理経営を推進していく上では、国民の視点に立った事業の実行とともにその成果の効果的な説明・PRが求められています。今回の研修で得たことを職員一人一人が各種説明資料の作成やマスコミへの情報提供等に活かし、国民の幅広い理解と支援を得るように努めていくこととされています。

## 地域との連携

### 行政懇談会を開催

「南木曾支署」八月二十一日、南木曾会館大会議室において、南木曾町と当支署

との行政懇談会を開催しました。当日は、南木曾町長をはじめ南木曾町関係者十三名、当支署からは支署長他十名の職員が参加しての会議となりました。

会議では、双方から事業・業務の概要の説明の後、要望事項を個別具体的に説明し、回答していく方式で活発な議論が展開されました。

南木曾町からは、木材産業は元より地元産木材を加工した工芸品の持続的な振興に不可欠な地域材の安定供給や、度重なる集中豪雨災害に見舞われた歴史を忘れず、災害に強い山作り、とりわけ治山事業の積極的な推進と、生活に密着する十一路線の併用林道の防災等改良工事に



懇談会で挨拶する廣田支署長

ついて要望が出されました。

これに対して当支署は、町からの要望は地域別住民懇談会を通じた住民の皆様ごの意見が反映されたものと認識しており、地域の皆さんの安全・安心のための業務運営に努めるとの考えを伝えるとともに、貸付地の有償化及び新設林道の工事に係る協力要請を行うなど実りある懇談会となりました。

来年度に向けては、現地見学も含め実施していくこととしており、より充実した行政懇談会になるよう努めることとしています。

### 地元市町村との意見交換会を開催

「岐阜署」九月二十九日、当署管内の地元市町村で構成する「岐阜地区・国有林野等所在市町村有志協議会」を下呂市において開催しました。

初めに、中部森林管理局の竹林次長から、最近の森林・林業の動向、経済界、金融機関、全国市町村会からそれぞれ日本の森林・林業の再興に向けた問題提起がなされているとの情報提供と挨拶がありました。

その後、局、森林技術センター、岐阜森林管理署から、それぞれ取組状況について説明がなされた後、野村下呂市長の議長により、活発な要望・意見の交換が行われました。

このなかで「来年度岐阜県で開催され





有志協議会の様子

る全国豊かな海づくり大会」に向けて、各市町村では様々なイベントを計画し準備を進めており、国有林としても協力をしていたいただきたいとの話があり、「金華山の枯損木処理の推進、官行造林の契約延長」等の要望が出されました。

また、「森林・林業への関心は高いが、現実としては材価が安く、特に民有林では備からないために材を出せない、間伐が進まない」、「来年度、加子母地区で着工予定となっている製材工場（セイホク）の木材安定供給の必要性」等について意見交換がなされ、各市町村長さんの熱い思いが伝わる協議会となりました。

### 民有林直轄治山事業地視察

#### 国有林の取り組みを紹介

〔富山署〕十月二日、富山県地域振興団体協議会主催の担当課長会議及び現地研究会が、常願寺川地区民有林直轄治山



スゴ谷トンネル出口  
(奥は橋梁新設工事箇所)

事業地で開催され、市町村の林務担当者十六名が参加されました。  
当初この事業は、富山県が砂防事業と連携しながら昭和四十二年度から平成八年度まで山腹崩壊等の復旧を進めてきましたが、事業規模が大きいく等から、県や関係各方面からの強い要望を踏まえ、平成九年度から国の直轄治山事業として着手している地区で、立山カルデラに隣接する流域にあります。  
現在、資材運搬用のトンネル（九八五辺）が完成し、橋梁（四五辺）工事や深間工及び山腹工を施工しており、常願寺川治山事業所主任の案内により、本年度の事業内容について説明を行いました。  
会議では、当署の各事業の取組等について説明を行い、意見交換会を実施しました。出席者からは、大規模砂防事業地



現地資材（転石）を活用した洗い越し

このなかで、作設中の作業道において、線形設計のあり方や水処理の分散、

の上部で国有林が治山事業を施工していることに驚いたようで、国有林への理解を深めていただく良い機会となりました。

### 民有林現地検討会(作業路網)の技術指導

〔技術センター〕十月二日、下呂市馬瀬惣島及び名丸、下呂市萩原町羽根の民有林において、「ひだ林業・建設業森づくり協議会下呂部会」の主催による作業道作設現地検討会が行われ、同協議会から依頼を受けた森林技術センター職員が講師をとめ、技術指導をしました。  
当日は、小雨の降る中、岐阜県、下呂市職員を始め下呂部会員二十名が参加しました。

### 各地からのたより

洗い越しの作設方法や現地資材を活用した構造物の配置、土質に応じた施工方法等について熱心な討議が行われるとともに、簡易で耐久性の高い作業路網について、当センター職員が技術指導を行い、民・国連携した現地検討会の実施となりました。

### 地域発案で美女平風致探勝林内の遊歩道整備(チップ撒き)

〔富山署〕美女平からブナ坂一帯は、昭和六十一年三月に「美女平風致探勝林」に指定され、遊歩道が設けられ多くの観光客に利用されています。



間伐材の運び出し作業 (官行造林地)





チップ撒き作業  
(美女平風致探勝林内遊歩道)

しかし、近年この遊歩道では、表流水等により立山スギ等の根が洗掘されている箇所が多く見られることや、観光客が歩道の水たまりを避けて通ることから歩道が横に広がりつつあります。このため、立山町にある官行造林地内で実施した保育間伐材を有効利用してチップの敷設等の整備を行うこととしたものです。

九月十五日から十六日にかけては、フォレストサポーターズ、立山地区国有林野保護管理協議会と協働で、官行造林地内のスギ間伐跡地において、玉切りした間伐材を林道まで運び出し、チップパーシユレッダーでチップを製作しました。当署職員は、二日で延べ三十五名、ボランティアは延べ三十二名参加していただいたことにより、土の袋九百袋分のチップを製作することができました。

十七日は、当署職員十名、保護管理協議会二十二名、森林療法を楽しむ会などのボランティア八名の総勢四十名が参加して、前日までに製作したチップ

を撒く作業を行いました。チップ撒き箇所までは高低差四十以上のアップダウンがあり、四十名が横並びとなって手渡しで土のう袋を移動させました。九百袋の土のう袋を二回に分けて手渡しで運ぶ必要があり、千八百回の手渡しを行ってやっと運ぶことができました。

参加者は皆バテバテながらも、遊歩道内の根が被るようチップを撒き、今年度は百回ほど完成することができました。今後は、二年間かけて残り一八〇回分のチップ撒きを行っていく予定です。

### 地元の小学生が「檜皮」

#### について学習

#### 職人の技に見入る

【南木曾支署】十月六日、南木曾小学校三年生の児童三十五名が南木曾支署を訪れ、森林教室を実施しました。



採取した檜皮を見学する児童

この森林教室は、南木曾小学校三年生の総合的な学習テーマが「木」についてであることから、南木曾町から実際に伝統文化財の建物の屋根に利用されている檜皮の採取を見てもらったかどうかと考え、丁度、「檜皮の森」へ檜皮採取に入る社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会（以下社寺技術保存会）とも連携し対応することとしました。

当日は、台風十八号接近による悪天候のため、「檜皮の森」での見学を中止し、南木曾支署において、「森へいこう」のDVDを鑑賞した後、社寺技術保存会の原皮師が檜皮採取で使用する道具の説明、檜皮の歴史などの講義と檜皮の採取で使うぶり縄を使った木登りの実演や檜皮を採寸する作業を見学し、児童らはぶり縄を使って木を登る原皮師を見て「すごい」と職人芸に見入ったり、「皮を剥いだ後のヒノキは枯れたりはないんですか」、「採取するとき、どれくらいの高さまで登ることができますか」等多くの質問が出されていました。

その後、小学校へ移動して校庭内にある木曾五木をさがすゲームを行い、森林教室を終了しました。

南木曾支署として「檜皮の森」をはじめとした「木の文化を支える森づくり」と森林環境教育を融合した取組を推進することにしており、今後もこういった取組について、協定相手方とも連携しながら進めていくこととしています。



ぶり縄を使用している木登りの実演

### 「木づかい」で温暖化防止を!

#### 「木の目」の要否活動

【名古屋事務所】木づかい推進月間中の十月七日に、岐阜県木材利用推進協議会（後藤直剛会長）と名古屋事務所が連携し「公共施設への地域材の利用促進」と「木づかい運動の推進」等に関する要望活動を行いました。



古田岐阜県知事への要望活動の様子

岐阜県知事をはじめ、ぎふ清流国体推進局や各部署局長等、議会・教育委員会、県警本部に対し、「木材の利用推進に関する要望書」を手渡し、公共施設・学校等の木造化・内装の木質化、土木工事等における間伐材の利用、地域材を利用した木造住宅の建築促進、木質バイオマスエネルギー利用の推進及び「地球温暖化防止に向けた森林吸収源対策」への理解と支援をお願いしました。

## シリーズ 現場最前線

### 何でも話し合い安全と

#### 効率の良い職場作り

中信森林管理署 大町班

中信森林管理署大町班の作業場所は、長野県北西部の北安曇郡、大町市に所在する国有林、官行造林地で、森林事務所は鹿島、松川、白馬、小谷の管内約五〇、七〇〇haで作業を行っています。

班員は、基幹作業職員一名、臨時作業員一名の二名体制とごく小規模であります。作業種は春から秋にかけての除伐、保育間伐、つる切、冬期の看板作りなど多様な仕事に従事しています。

現場作業に当たっては、管轄森林事務所が多いことから、班と森林官が連絡を緊密に取り合うことで、現地にあった安全対策、季節等に応じた衛生対策や通勤

時間が長いため車両運転時の危険箇所を全員で確認等の安全対策を共有することとしています。具体的には、「何でも話し合える関係の構築」、「さらに良い方法で作業が行えないかという探求心」を意識したミーティング、安全懇談会を行っています。



歩道整備の作業状況

また、安全懇談会については、月初めに一度、各森林事務所、各治山事業所と班で集まって行い、その場でヒヤリハット事例等による危険予知及び安全確保を徹底して行うことで、危険の芽を少しでも摘み取ることを意識して行っています。

今後も少人数班ではありますが、森林の健全な育成を図るため、何でも話し合いより良い職場作りに努めていきます。

## 人のうごき

### 林野庁人事 (抄)

九月一日付

- ▽林野庁国有林野部業務課国有林野総合利用推進室長 (中部森林管理局計画部計画課長) 角 秀敏
- ▽中部森林管理局計画部計画課長 (近畿中国森林管理局森林整備部治山課長) 川浪亜紀子

川浪亜紀子

- ▽林野庁出向 (関東森林管理局出向) 総務部総務課付 (林野庁森林整備部計画課併任) 国有林野部経営企画課併任 (中部森林管理局計画部計画課経営計画第三係長) 川本 芳光

### 中部森林管理局人事

九月一日付

- ▽計画部計画課経営計画第三係長 (飛騨署業務第一課技術専門官) 反中 孝一
- ▽東北森林管理局出向 (総務部職員厚生課付) (中信署治山課治山第三係長) 本田 敬子

### 林野庁人事 (抄)

九月三十日付

- ▽退職 (中部森林管理局飛騨森林管理署) 渡辺 衛市

### 中部森林管理局人事

九月三十日付

- ▽退職 (飛騨署業務第一課付) 遠山 恵一
- ▽退職 (岐阜署業務第一課管理係)

### 林野庁人事 (抄)

十月一日付

- ▽中部森林管理局飛騨森林管理署長 (林野庁森林整備部計画課長補佐) (山村振興指導) 原 修
- ▽林野庁森林整備部整備課路網整備専門官 (中部森林管理局総務部専門官) (契約適正化) 企画調整室併任 池本 育利

池本 育利

- ▽中部森林管理局総務部専門官 (契約適正化) 企画調整室併任 (中部森林管理局計画部企画官) (自然再生担当) 計画部指導普及課併任 小久保 優

### 中部森林管理局人事

十月一日付

- ▽飛騨森林管理署付 (局総務部付) (名古屋事務所) 野々川吉弘
- ▽森林整備部治山課審査係長 (局森林整備部治山課調査係長) 村田 則幸
- ▽森林整備部治山課調査係長 (木曾署治山課治山第一係長) 大久保秀一
- ▽木曾森林管理署治山課治山第一係長 (木曾署治山課治山第二係長) 小嶋 友和

小嶋 友和

- ▽木曾森林管理署治山課治山第二係長 (局森林整備部治山課企画係主幹) (治山担当愛知森林管理事務所) 萩原 伸也

萩原 伸也

- ▽飛騨森林管理署業務第一課森林ふれあい係長 (飛騨署業務第一課付) 大西 沙織

大西 沙織



# 平成二十一年度 「森林の絵画コンクール」開催



「名古屋事務所」平成二十一年度「森林の絵画コンクール」は、平成二十二年にCOP10愛知県名古屋市内開催を盛り上げる「COP10パートナーシップ事業」の位置づけを新たに加え、中部森林管理局名古屋事務所、中日新聞社、中部日本治山治水連盟主催、べんてる株式会社協賛、生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会の連携協力により開催しました。

このコンクールは、木材の供給はもとより、きれいな水や空気の源として、さらに国土や生活環境の保全、安らぎの場の提供など私たち人間はもとより生物に様々な恩恵を与えてくれる森林の大切さを、次代を担う子供達に、絵画を通じてもつと知っていただき、より身近なものとしていただきたいとの思いで、平成九年度から取り組んでいるもので、今年で十二回目となります。

今回は「あなたがイメージする美しい森林」や「こんな森林があつたらいいな、生物多様性の保全などこんな森林をつくってみたいな」という夢のあるテーマで作品の募集を行いました。

作品の応募状況は、昨年に比べ二百点余を超える五百六十七点の応募作品があり、北海道から九州まで全国から寄せら

れました。審査は九月二十五日名古屋事務所において、幼児、小学生低学年、小学生高学年、中学生の四部門、それぞれ五点の入賞作品を決定しました。

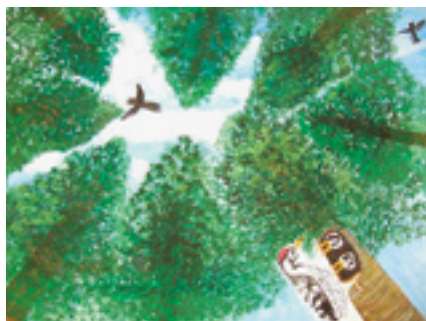
入賞作品の表彰式は、生物多様性の保全に関わりの深い「環境省稲永ビクターセンター」(名古屋港区区野跡)で十月十日に開催し、竹林名古屋事務所長が、「どの作品も、力作揃いで、審査は大変難航いたしました。また、作品には、森林に対する想いが鮮明に描かれており、森林や環境への関心の高さを感じ、その反響の大きさに国民の森林を預かる者として、改めて責任の重さを感じております。また、中部森林管理局では、国有林をフィールドとした森林環境教育に積極的に取り組んでいますのでご活用いただければと思います。」と挨拶を述べました。引き続き、竹林所長から中部森林管理局局長(金賞)及び名古屋事務所長賞(佳作)、中日新聞古田社会事業部次長から中日新聞社賞(銀賞)及び中部日本治山治水連盟賞(銅賞)が入賞者に渡されました。

表彰式典終了後、受賞者は家族と共に展示作品を見ながら、受賞の喜びに浸り楽しそうに会話していました。

この「稲永ビクターセンター」での作品展示は、十月十二日までですが、第二回目的作品展示を「瀬戸自然休養林内の森林交流館」において、十月二十七日～十一月二十三日まで予定しています。



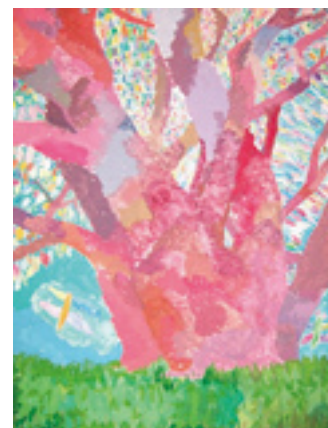
小学生低学年の部 金賞  
「森の仲間達」  
青山 直樹さん



小学生高学年の部 金賞  
「キツツキの森」  
平松 大輔さん



中学生の部 金賞  
「緑豊かな森」  
小森 大空さん



幼児の部 金賞  
「大きな木」  
堀之内 斗和さん



表彰式風景

## 行事・会議等の予定

- ◎ 治山現地検討会  
11月5～6日 東濃署管内
- ◎ 名古屋シティフォレスト事業  
11月5日 愛知所管内  
11月18日 愛知所管内
- ◎ 造林現地検討会  
11月9～10日 中信署管内
- ◎ 保護林モニタリング現地検討会  
11月10～12日 中信・木曽署管内他
- ◎ 署長等会議  
11月12～13日 中部森林管理局





**伊奈川溪谷**  
いながわけいこく

南木曾支署  
(各署の景勝地等を紹介)

「南木曾支署」木曾川の支流「伊奈川」は、中央アルプスの檜尾岳（標高二、七二八メートル）と三沢岳（標高二、八四六メートル）とに挟まれた伊奈川国有林の幾重もの沢に端を発し木曾川に注いでいます。一帯は「伊奈川溪谷」と呼ばれ、源流は中央アルプス木曾駒ヶ岳森林生態系保護地や中央アルプス県立自然公園に指定され、空木岳（標高二、八六四メートル）、南駒ヶ岳（二、八四一メートル）などの名峰を目指す登山者をはじめ、清流を楽しむトレッキング等多くの人々が訪れています。

中央アルプスの登山口は伊那谷側のロープウェイからがメインルートとなりますが、伊奈川溪谷から空木岳等を目指すルートも根強い人気を有しています。このルートは関西電力の発電用ダム「伊奈川ダム」の上流にある駐車場から伊奈川に沿って走っている林道を進み、人工林と天然林の織りなす景観を楽

しみながら登山道を登り、やがてダケカンバやナナカマド、シラベといった亜高山帯の樹林を抜けて空木岳と東川岳の鞍部に到着となります。ここには、平安時代末期、木曾に縁のある「木曾義仲」が伊那攻めの時にこの鞍部を登り越えたという古事が残っており、「木曾殿越」（標高二、五〇五メートル）という名前がついています。また、近くには「義仲の力水」という水場もあり、その名水は登山者の気力・体力の回復にも一役買っています。

日本百名山で最後に登る方が多い空木岳から南へは越百山（二、六一三メートル）、北へは木曾駒ヶ岳への縦走が楽しめ、新緑の季節、あるいは紅葉の季節、雪化粧を纏った季節と四季折々を通じ、美しい風景が見られ、多種多様な高山植物も楽しめます。

是非、「伊奈川溪谷」から中央アルプスに登ってみてはいかがでしょうか。

◆アクセス

○公共交通機関を利用した場合

JR 中央西線須原駅または大桑駅下車



コイワカガミ



イワウメ



花崗岩石の伊奈川



空木岳と木曾殿越



雪化粧の空木岳



紅葉の南駒ヶ岳

タクシー利用で伊奈川ダム上部駐車場まで約四十五分  
駐車場から木曾殿越まで約六時間三十分

○自動車を利用した場合  
国道十九号線伊奈川橋信号から伊奈川ダム上部駐車場まで約四十分